

## 先進医療を支える確かな視線

身体から採取された組織の構築や細胞の形態を顕微鏡で観察し、様々なタンパク質・核酸の局在を調べて診断をつけるのが病理診断部の仕事です。様々な疾患・臓器を専門とする病理医が各診療科のニーズに応えます。

### 診療体制

総勢20名を超える病理医・臨床検査技師・細胞診検査士の協同作業により標本作製から診断までを迅速に行います。テレパソロジー(遠隔病理診断)による関連施設の診断サポートも行っています。

### 対象疾患

移植臓器、造血器、皮膚、脳腫瘍、頭頸部、呼吸器、循環器、乳腺、女性生殖器、泌尿器、男性生殖器、腎病理、消化器、内分泌臓器、骨・軟部、小児の各疾患

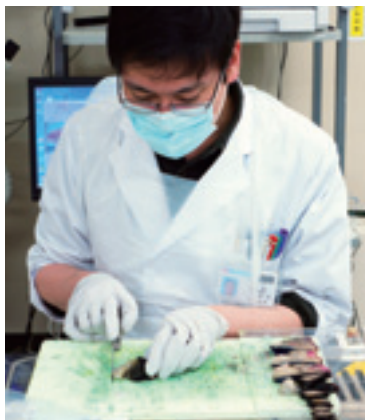
### 診療、研究実績

#### 一般的な診療についての実績

年間の院内診断件数：病理組織約12,000件、うち術中迅速診断約1,000件、他施設からの持参標本約600件。細胞診約14,000件、うち術中迅速約500件、他施設からの持参標本約100件、病棟・手術室への出向約150件。病理解剖約50件。

#### 高度医療の取り組み・研究

- ①肝移植・小腸移植におけるグラフト拒絶反応の研究  
抗ドナー抗体による拒絶反応、慢性肝炎型の拒絶反応、小腸拒絶反応におけるNKT細胞の役割について発表しています。
- ②子宮悪性腫瘍の研究  
HPV陰性の子宮頸部腺がんについての診断基準を確立し生物学的態度を明らかにしました。
- ③リンパ増殖性疾患の研究  
移植後リンパ増殖性疾患やIgG4関連疾患の臨床病理学的な特徴を明らかにしました。



## 栄養のスペシャリストとして

「食事・栄養」が健康に及ぼす影響は非常に大きく、臨床学的根拠に基づいた栄養管理を実践し、これまでの各疾患や術後に伴う低栄養に加え、近年急増している過剰栄養にも対応した栄養指導や食事管理で患者さんの治療に努めています。

### 業務体制

管理栄養士13名で外来、入院患者さんへの栄養指導や食事の調整、給食部門の委託管理、給食管理など病院における栄養管理業務の全般を行っています。また、医師・看護師・薬剤師・検査技師などと共同で、NST活動や、褥瘡対策など病院全体の栄養管理も行っています。平成22年6月1日より入院患者の食事を安全に提供するため、加熱調理直後に各料理を急速冷却し、提供直前に再加熱する「ニュークックチルシステム」を採用しております。

### 対象疾患

糖尿病、脂質異常、肥満、心臓病、腎臓病、炎症性腸疾患(IBD)、食思不振ほか、全疾患に対応。年間1万件程度の栄養指導件数は、全国国立大学病院一の件数を維持しています。また各疾患別の集団教室では、調理実習や食事会もあり患者さんから好評です。

### その他の取り組み

- ①栄養のスペシャリストとして、病態栄養専門師、糖尿病療養指導士、健康運動指導士などの資格を取得したスタッフも多く、各種業務に活かしています。
- ②日々の研鑽成果をまとめ、病態栄養学会、栄養改善学会、糖尿病学会、褥瘡学会などへ発表も行っています。
- ③臨床栄養学実習生および研修生の受け入れ、他大学などと連携した院外での調理実習など大学病院教育機関としての役割や、患者会への応援、院内外の医療スタッフに対する公開勉強会など地域連携の拠点としての役割も担っています。

